

# まな ぼう さい 学ぼう防災

「命を守る」ための防災教育



## 避難するとき

特に洪水時に避難するときは、川のそばの道路の利用は避けましょう。水があふれたりする場合があります。大変危険です。

ラジオ・テレビで最新の気象情報に注意しましょう。

避難時は、役場・消防署・警察署などの指示にしたがい、早めに避難をしましょう。

避難するまえに、電気・ガスなどの火元を消し、必要なものをまとめておきましょう。

車での避難は緊急車両の妨げになるので控えましょう。徒歩での避難を行いましょう。

浸水した所は、溝や水路に気づきにくいので、十分注意して避難しましょう。

役場、消防署からの避難の呼びかけに注意しましょう。

避難がおくれ、危険がせまった場合は、近くの丈夫な建物の3階以上に逃げましょう。

近くの避難所の場所を、確認しておきましょう。

洪水時の、だし、長靴での避難は危険です。動きやすい運動靴で避難しましょう。

## 助け合いましょう

体の不自由な方や、お年寄りの方は避難することが困難であったり遅れたりすることがあるため、みんなで協力して助けあいましょう。

### 目の不自由な方には

声をかけて一緒に行動しましょう。

### ひとり暮らしのお年寄りの方には

普段から気をくばりましょう。

### 耳が不自由な方には

まっすぐ顔をむけ、口を大きくはっきり動かしましょう。紙に書いたり、身振りで情報をわかりやすく伝えましょう。

### 体の不自由な方には寝たきりの方には

複数の人で協力しましょう。車いすの場合は3人以上で協力し、上がるときは前向きに、下がるときは後ろ向きで避難しましょう。





# 地震の揺れと被害

(震度0~3は省略しています)

## 震度4



- 歩行者も揺れを感じ、眠っている人は目を覚ます。
- 照明などのつり下げ物が大きく揺れる。
- 置物がたおれることがある。

## 震度5弱



- 恐怖を覚え、物につかまりたくなる。
- 棚にある食器類や本が落ちる。
- 固定していない家具が移動する。

## 震度5強



- 物につかまらないと歩けない。
- 棚にある食器類や本が落ちる。
- 固定していない家具がたおれる。

## 震度6弱



- 立っていることが困難。
- 家具の大半がたおれる。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損する。

## 震度6強



- 立っていることができない。
- 耐震性の低い木造建物が傾き、たおれる。

## 震度7



- 耐震性の高い木造建物でも傾く。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物がたおれる。

## 震度とマグニチュードの違い

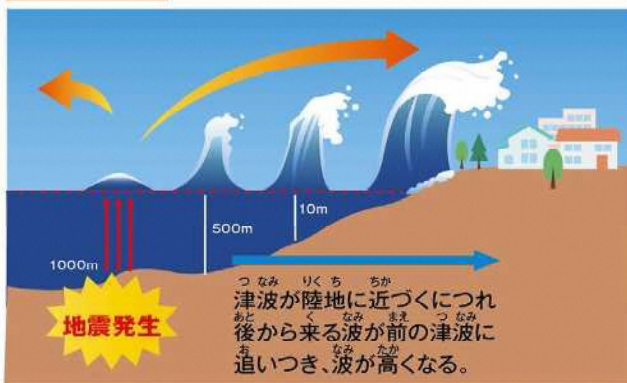
震度

:わたしたちが生活している場所での揺れの強さ。

マグニチュード:地震そのものの大きさ(規模)を示す値です。

地震時の行動についてはP9も見てね。

## 津波



すぐに高台に避難!!

津波はおおきな地震の後におそってくるよ。

津波はくりかえしおそってくるよ。

津波の速さはジェット機の速さだよ。

津波についてはP10も見てね。

## 台風・洪水

天気予報やニュースなどで台風や大雨で危険を知ったら、注意しながら落ちついておとなの人の指示にしたがい行動しましょう。

守ろう!

- ①川や海にはぜったい近づかない!
- ②外のようなすななども見に行かない! むやみに外に出ない!
- ③非常時持ち出し品の用意や避難場所なども確認!
- ④避難はすばやく! (避難するときは、なるべく2人以上で!)



まな ぼう さい  
**学ぼう防災**  
 「命を守る」ための防災教育

災害の種類:津波 災害の種類:洪水 災害の種類:土砂災害

防災教育ポータルサイト(国土交通省)より一部抜粋  
<http://www.mlit.go.jp/river/bousai/education/index.html>



## 津波 (つなみ)

①地震が起こると、自分の家が津波に巻き込まれてしまうことがあるよ!



津波が発生しても自分の家が浸水することはないと思い避難しなかったところ、津波にのみれる。

⇒自分の家や通学路が、危ない場所かどうか調べるのが大事!

②揺れが収まったからといって、自分の家に戻ると津波に巻き込まれてしまうことがあるよ!



地震が発生した際に一旦避難しようと思ったが、家が壊れなかったため帰宅したところ、津波が押し寄せてのみれる。

⇒津波が来ないことが分かるまで安全な場所に避難しよう!

③津波のスピードはとても速いので、見えてから逃げてもし逃いつかれて巻き込まれてしまうよ!



津波が確認できなかったので逃げなかったが、津波を確認して逃げようと思ったときには走って逃げてもし間に合わず、津波にのみれる。

⇒揺れを感じたらすぐに高いところへ逃げよう!

④低い津波でも勢いで足をすくわれて流されてしまうことがあるよ!



津波の予想が50cmでたいした高さでないと思ったので逃げなかったが、50cm程度の津波に巻き込まれ流される。

⇒津波の高さに関係なく、揺れを感じたらすぐに高いところへ逃げよう!

## 洪水 (こうずい)

①大雨が降ると、自分の家が洪水に巻き込まれてしまうことがあるよ!



洪水が発生しても自分の家が浸水することはないと思い避難しなかったところ、洪水により自宅が浸水し、溺れる。

⇒自分の家や通学路が、危ない場所かどうか調べるのが大事!

②ドアの外に30cmの水がたまると、ドアが開かなくなってしまうよ!



自宅が浸水していなかったので逃げなかったが、浸水して逃げようと思ったときには水圧でドアが開かず溺れる。

⇒家の周りが水に浸かる前に安全な場所に逃げよう!

③洪水は2階まで押し寄せてくることもあるよ!



洪水により自分の家の2階まで浸水することはないと思い、自宅の2階に避難したところ、自宅の2階まで浸水し、溺れる。

⇒自分の家や通学路が、危ない場所かどうか調べるのが大事!





## がけ崩れ (がけくずれ)

①雨が降っている時やその後、小石が落ちてきたら、崖崩れのまえばれだよ!



大雨が降った後、山や川の様子の変化に気が付かないでその場にいると、土砂に巻き込まれる。

⇒山から小石がバラバラと落ちてきたり、山の斜面から水がわき出ているときは、すぐにその場からはなれよう!

②地震が起きたり、大雨が降ったりすると自分の家が土砂災害に巻き込まれてしまうことがあるよ!



土砂災害が発生しても自分の家が巻き込まれることはないと思避難しなかったところ、土砂災害により自宅が土砂に巻き込まれる。

⇒自分の家や通学路が、危ない場所かどうか調べるのが大事!

③山から土砂が流れ込んで1階が埋まってしまうことがあるよ!



自宅の1階にいて、土砂災害に巻き込まれる。

⇒心配になったら家族と相談してすぐに避難しよう!でも、外が危なそうなら、家の高いところに逃げて!

④テレビなどから「避難」するように言われていたら早く避難しないと逃げられないよ!



避難勧告等や気象情報に基づきすぐに避難行動が出来ない。

⇒市町村から「ひなんかんこく」のお知らせがあったら、すぐに避難しよう!

⑤避難するときに急な崖の近くを歩くと危ないよ!



土石流を確認してから逃げようと思ったときには、走っても間に合わなく、土石流に追いつかれる。

⇒避難所や避難する道を家族で話し合おう!

## 土石流 (どせきりゅう)

①土石流は早いから、見えてから逃げてもすぐに追いつかれるよ。



土石流を確認してから逃げようと思ったときには、走っても間に合わなく、土石流に追いつかれる。

⇒土石流から逃げるときには、川の流れと同じ方向ではなく、川から離れる方向に逃げよう!

②大きな土砂災害は2階まで押し寄せてくることもあるよ!



垂直避難をすれば大丈夫と思い、自宅の2階に避難したところ、2階に土砂が流れ込み、埋もれる。

⇒家から出られなくならないように、早めの避難を心がけよう!